## 大気テレコネクションとGDP成長率の共変動

## Covariability between Atmospheric Teleconnections and GDP Growth Rates

## \*加藤 茜<sup>1</sup>、立花 義裕<sup>1</sup>、小松 謙介<sup>1</sup>、安藤 雄太<sup>1</sup> \*Akane Kato<sup>1</sup>, Yoshihiro Tachibana<sup>1</sup>, Kensuke K. Komatsu<sup>1</sup>, Yuta Ando<sup>1</sup>

1. 三重大学大学院生物資源学研究科

1. Faculty of Bioresources, Mie University

気象や気候は、経済に影響を与えることが知られている。ここで、エルニーニョ現象や北極振動のようにあ る地域の気象が別の地域の気象に影響を与える(テレコネクション)ことがある。それと同様に、ある国の経 済が別の国の経済に影響を及ぼすことがある。よって、気象・気候と経済の関係を調べる際には、遠隔的な影 響を考慮しながら全球的な視点から調べることが必要である。しかし、そのような視点での研究例は存在しな い。そこで、本研究では大気テレコネクションと各国の国内総生産(GDP)成長率の関連を調べ、経済活動と 関連の深いテレコネクションパターンを明らかにすることを目的とする。

今回の研究では、太平洋十年規模振動(PDO)指数もしくは南方振動指数(SOI)とGDP成長率の間に関連 があることが示唆された。多くの国のGDP成長率はPDO指数と負相関、SOIと正相関となった。また、GDP成 長率を経験的直交関数(EOF)解析をしたところ、第1モードの指数と各国のGDP成長率の相関係数は、アフ リカや東南アジアといった発展途上国を中心に負となった。このことから、第1モードは発展途上国と先進国 の格差を表していると考えられる。さらに、第1モードの指数とPDO指数もしくはSOIの相関をとると、有意な 相関が見られた。以上のことから、発展途上国と先進国の格差がこれらのテレコネクションパターンと関連し ている可能性を示唆された。

キーワード:国内総生産、南方振動、太平洋十年規模振動 Keywords: Gross Domestic Product, Southern Oscillation, Pacific Decadal Oscillation ACG57-P11

